

令和7年度事業評価書（令和6年度事業）

評価事項	評価項目	評 価	評 価 内 容
教養文化の向上	量的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	アカデミー講座の回数、自主事業への参加者数などが増加している点が評価できる。
	質的な視点からサービスは適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	「次世代育成」をキーワードとし、小学生や中学生などを対象としたサービスに挑戦している点が評価できる。
	地域的な広がり、維持が適切に行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	前項目と同様、世代間の拡がりに寄与したサービスが展開されている。また地域的な広がりが、利用者の地理的な分布を意味しているのであれば、利用者居住地も泉大津市以外の利用者も一定程度認められている点も評価できる。
	ステップアップ促進が適切に行われたか	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	ステップアップの定義が明確ではないが、小中学生に加え、高校生を対象としたバンドフェスなどが開催され、利用者の多様化が促進された点が評価できる。
情報発信	量的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	市内教育機関への紙媒体の情報発信のみならず、SNS でも一定頻度で発信がなされている点が評価できる。
	質的な視点から適切に情報発信が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	公共機関は、特定の世代のみを対象とした尖ったデザインよりも、ユニバーサルなデザインが必要であり、それが実現されている点が評価できる。
	情報発信の方法は、適切であったか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	紙媒体、SNSなどを適切に使用している点が評価できる。「今回のイベントを何で知ったか」の回答では SNS の割合が少ないことに対する分析が必要といえる。
地域支援	量的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	11 団体、383 名に対して支援が行われている点は評価できる。一方、この数値をどのように判断するか基準も必要だといえる。
	質的な視点から適切に地域支援が行われたか。	適切に行われた ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	施設整備の利用料の減免など、広範な支援が実施されている点が評価できる。

地域支援	地域支援の方法は、適切であったか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	多岐にわたる支援に関する情報発信が適切になされていることに加え、イベントや広報案内に関しても支援内容に含まれている点が評価できる。
市民ニーズへの対応	市民ニーズの把握と満足度向上への取り組みは適切に行われたか。	<div>適切に行われた</div> ほぼ適切に行われた 適切とは言えない	「次世代」を対象としたイベントは潜在的な市民ニーズへの対応である点が評価できる。アンケートを通したニーズ把握だけではなく、「経験」を通した潜在的ニーズ発掘も重要であるといえる。
事業計画とコンセプトとの整合性	策定された事業計画は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<div>適切</div> <div>ほぼ適切</div> 適切ではない	①文化芸術の活動・発信拠点、②地域との交流による芸術活動・次世代育成の環境づくり、③次世代人材育成の拠点へ、の各目標に関して、具体的な取り組みが実現していると評価できる。一方で、自年度以降、事業を発展的に展開するには、さらなる人的資源が配置されることを望んでいる。
	策定された事業計画の実施によって具体的な成果（アウトカム）が上がっているか。	<div>上がっている</div> どちらも言えない 上がっていない	アウトカムを前項目の項目三点と同様と捉えるならば、特に「次世代育成」の面や、REIWA 盆ダンスを通して、地域との交流の面でアウトカムを残していると評価できる。
	PFI 事業者の実施体制は、文化の自分化創造館を実現する・具体化する取り組みとして適切であったか。	<div>適切</div> ほぼ適切 適切ではない	「文化の自分化創造館」というコンセプトは、自らが文化創造の「一部」であるとの意識を市民が持ちうることでと捉えられる。その点において、今年度の参加型のイベントの促進は、非常に適切であったと評価できる。

## 事業についての講評

文化事業は、一人でも多くの市民が参加することを通して、泉大津市の活性化にもつながる。その点で、多様な世代が参加できるイベントの開催、市民が鑑賞するだけでなく参加できるイベントが実施されている点で、今年度の取り組みは、事業計画を効果的に実現するものであった。今後は、多様な社会経済的背景にある市民への参加を促進するためのさらなる取り組みが望まれる。そのためにも、限られた財源の中ではあるが、「あすとホール」における人的・物的資源の充実を、行政そして PFI 事業者にも期待したい。

また、事業評価をより効果的に実施するためにも、評価事項・評価項目の簡素化・適正化の検討を提案したい。事業評価という手続自体は事業を見直し、さらなる改善を促進するために重要なプロセスである。だからこそ、評価を「実質的」な改善につなげる必要から、上記の点を講評の最後に追加させていただきたい。

## PFI 事業者への提言、提案など

上記でも既に述べたが、今年度の取組は、利用者の拡がりを促進するためにも、効果的になされてきたといえる。今後は、さらなる利用者の拡がりも目的としたイベントの企画実施に積極的に取り組んでいただきたい。

なお、「文化の自分化創造館」というコンセプトは、事業計画書などには示されているが、市民への情報発信には多くは使われていない印象をもった。とてもユニークなコンセプトであるが、「難解さ」を感じる市民もいることが想定される。この軸となるコンセプトを各種イベントにも浸透させ、次年度もさらなる進展を期待したい。